

編集後記

立春が過ぎしばらく寒い日が続きましたが、ようやく陽の光も和んできたようです。逆に今年の3月は、気温が高めに経過しそうと天気予報では伝えています。それでも三寒四温。ひと雨ごとに気温も上がってくるようですが、寒い日もまだまだありそうです。皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。インフルエンザ、花粉症と油断はできません。体調には十分ご配慮ください。

最近、将来の医師数不足を警告する報道を耳にしました。特に地域による偏在が問題で、大都市圏に医師が集中し、地方では医師不足が深刻になるとのことです。でも、頭数だけ揃えれば良いというものでもなく、質をどう担保するかという面での卒前・卒後教育および研修の体制を充実させるのも大事だと思います。かなり以前に聞いた話ではあるのですが、ある地方の自治体が運営する病院（要するに市民病院）に1人医長として赴任していた眼科医が、東京で開催される学会に出席しようとして出張を申請したところ、まだ学会で勉強しなければいけないような人が医長として勤務されているとは困ると言われたとのこと。すったもんだの末ようやく認めてくれた旅費が、高速バスの使用を前提とした額だったということです。今はその施設ではそのようなことはないと思いますが、地方の医療機関で仕事をしている場合、学会参加ひとつをとってもなかなか難しいのは現在でもあまり変わらないように思い

ます。医者も気が滅入るし、加えて日常の激務を考えれば辞めたいと思うのも仕方ないかもしれません。負のスパイラルです。現在の医療は、超過勤務を健気にこなす医師のサービス精神によって成り立っていると思います。医師はサービス精神を当然持つべきですが、それに頼る医療しか施策できない現状も悲しいものです。

さて、気を取り直して、今月号の特集は、“調節機能：基礎から臨床まで”です。調節機能不全（老眼）を対象としたサプリメントが大はやりとのこと。しかし我々としては、その裏に潜む眼の障害をしっかりと把握しておかなければなりません。それでこそプロであり、そのことで患者は医師を尊敬するのだと思います。サプリメントに負けてはいられません。綜説は、これも今はやりの(?)後天急性内斜視、いわゆるスマホ使いすぎの内斜視と、ぶどう膜炎に対する生物製剤治療の現状です。機器・薬剤紹介は、画像が合成できるOCT Angiographyの紹介、橋渡し研究アップデートは、神経保護についてです。さらに今回は「原著」「臨床報告」「私の経験」が各1本ずつ掲載されています。少しずつ『眼科』への投稿論文も増えているようです。さらに多くの読者の方が本誌の紙面を活用して、自身の研究成果や経験をご発表いただければ幸いです。

(富田剛司・記)

編集：飯島裕幸・富田剛司・坪田一男・後藤 浩・雑賀司珠也・門之園一明・三村 治
編集顧問：所 敬・小口芳久・白井正彦・澤 充・谷原秀信・岸 章治

「眼科」 第61巻 第3号 3月号

2019年3月5日発行（毎月1回5日発行）
定価（本体2,800円＋税）

年間講読料金 定価（本体42,100円＋税）
〔年間13冊（臨時増刊号を含む）の誌代〕
〔年間予約購読者に限り送料無料〕

発行所 金原出版株式会社

発行者 福村直樹

〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-14

Tel 03 (3811) 7165〔編集室直通〕

Tel 03 (3811) 7184〔営業部直通〕

FAX 03 (3813) 0288

ホームページ <http://www.kanehara-shuppan.co.jp/>

振替口座 00130-1-191269

印刷所 横山印刷株式会社 Tel 03 (3622) 6161

広告申込先 福田商店 Tel 06 (6941) 5600

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著作者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・JCOPY＜出版者著作権管理機構 委託出版物＞

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（TEL：03-5244-5088, FAX：03-5244-5089, e-mail：info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。